



11 月 号

平成 29 年 11 月 24 日

桜花爛漫

郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

心豊かで
たくましい荘川っ子

- ・考える子
- ・思いやりのある子
- ・元気な子

なくてはならない2本の柱

校長 水口 悟

虹蔵れて見えず (にじ かくれて みえず 小雪・初候)

虹を見かけることが少なくなるころ。北陸では、冬季雷(とうきらい)と呼ばれる雷が増してきます。(新暦では、およそ十一月二十二日～十一月二十六日ごろ 日本の七十二候を楽しむより)

今月16日の公表会には、保護者や地域の方々に沢山ご参観いただきました。ありがとうございました。小雪舞う荘川らしい天候の中で開催された7回目となる公表会でしたが、約100名の参加者があり、「今年も素敵な授業と子どもたちの姿が見られて嬉しかった」等、沢山の感想をいただきました。

アトラクションは見事でした。少し冷えた体育館の中に、伝わってくる荘川の子どもの歌声の思い。「歌声が優しくなったと思います」という参観者の声。「子どもたちの歌声には、涙が出ます」というVTRを手にする保護者の声。先日のスピーチ集会にて、ある児童が話してくれた「桜の下で」の歌詞にある‘どんなに前を向いて いたって つらい事 悲しい事あるけれど 君の涙 受けとめて 微笑んでいられる様に 強く優しく大きくなりたい・・・’は、心に浸みます。夏の新島研修の折に歌ったときも、大野屋旅館と長栄寺の奥さん方が、「この歌は、荘川桜のことを歌った曲ですか？」と偶然にも同じ質問をされたことを思い出します。子どもたちの合唱の力はもちろんのこと、ふるさと荘川に対する思いが強く深く育っていることが、嬉しくてたまりません。「荘川の子どもたちは、ふるさとを背負っている」といわれた、新島小学校長の言葉も思い出されます。9年間を通して、合唱指導を通し専科の先生を中心に音楽教育を貫いてきた‘一人一人の子どもに確かな学力を付ける授業’という柱は、音楽の魅力を学び音楽の力をつけている荘川保小中一貫教育の‘なくてはならない柱’の1つです。

今回の公表会では、小学校3年生と中学校3年生によるふるさと学習(獅子舞い)に挑戦をしました。初めて公開する小中合同の授業づくりに向けて、小中学校の先生方は話し合いを重ね、すばらしい单元(伝統芸能 獅子舞い)を仕上げました。その過程にこそ、一貫教育を創り上げるための重要な対話があったのだと思います。授業の最後に、中学校3年生の生徒が「獅子舞いは心の拠りどころ」とまとめたそうです。教育長さんが、近寄って来てくださり「すばらしい!」と、にっこりされました。12年間で育まれた郷土に対する思いが「獅子舞いは心の拠りどころ」という一言に貫かれています。地域の方々とともに地域の中で生まれている‘郷土教育の推進’という柱は、郷土を愛する心を培っている荘川保小中一貫教育の‘なくてはならない柱’の1つです。

保育園における英語活動は、参観者が教室に入れないほどでした。終始、元気の良い園児の英語が、飛び交っていました。参観者の皆さんは、園児の姿に驚くばかりです。園長さんを始めとする保育士の皆さんとラジーヴ、クリスティン、メリッサ先生の尽力の賜です。新しい教育の流れの中で、小学校の英語の学習が確実に増えるこの時期に、英語活動においても一貫できる・しなくちゃいけないという思いが頭を過ぎります。先生方と保護者・地域の皆さんとで、やらなくちゃいけないことやりたいことが沢山あります。荘川町のシンボルである荘川桜のもと、保育園・小中学校の12年間を一貫する2本の柱で、‘君の涙 微笑んで 受け止められるように’、強く優しく大きく、荘川の子どもを育み続けたいと思います。